

授業科目 基礎看護学実習 II

【担当教員名】		対象学年	2	対象学科	看護
川崎 久子、佐藤 信枝、石塚 敏子 他		開講時期	前期	必修選択	必修
		単位数	2	時間数	90
【ディプロマポリシーとの関連性】					
知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	
◎	◎	◎	◎	◎	
【概要】					
看護過程演習の学習内容を活用して、現実に療養中の対象者に対して看護過程を展開する。この実習では、対象者1名を担当して、アセスメント、看護問題の明確化、看護目標の設定、看護計画立案、実施、評価という一連の過程を実際に経験する。					
【学習目標】					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習の目的・目標及び実習方法を説明できる。 2. 実習を安全に行うために必要な事故防止と倫理的配慮を説明できる。 3. 対象者との援助的人間関係を形成できる。 4. 対象者の健康状態をアセスメントし、看護問題を明確化できる。 5. 看護目標を設定し、看護計画を立案できる。 6. 看護計画に基づいて、援助を実施できる。 7. 実施した援助を根拠に基づいて評価できる。 8. 実習での学びを通して今後の学習課題を明確化できる。 					
回数	授業計画・学習の主題			SB0 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習オリエンテーション 2. 病院および病棟オリエンテーション 3. 病棟実習（2週間） <ol style="list-style-type: none"> 1) 対象者の健康状態に関するデータを収集する 2) 収集したデータを分析・解釈し、看護問題を特定する。 3) 看護問題の解決に向けて、看護目標の設定、看護計画の立案し、援助を行う。 4) 看護計画の実施結果を根拠に基づき評価する 5) 実習カンファレンスに参加し、看護過程を考察する。 4. 実習の総括 			1 2 3 4 4・5・6 7 2～7 8	5～6名のグループを編成し、病院において実習を行う。 (基礎看護学教員および他の看護学科教員)
【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>	
教科書 (必ず購入する書籍)					
参考書	新体系看護学全書別巻 看護技術の患者への適用 根拠がわかる症状別看護過程—ところからたの 61 症状・事例展開と関連図 (改訂第2版)	宮脇美保子編集 関口恵子編集	メジカルフレンド 南江堂	2008・1,700円＋税 2010・4,700円＋税	
	病期・病態・重症度からみた疾患別看護過程＋病 態関連図	井上智子・佐藤 千史編集	医学書院	2008・7,000円＋税	
	決定版ビジュアル基礎看護技術ガイド	川島みどり監修	照林社	2007・2,520円	
その他の資料	実習要項				
【評価方法】 実習評価表に基づいて実習目標の達成状況を評価する。		【履修上の留意点】 <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護過程演習の学習内容を理解していることが不可欠である。 2. 原則として、実習オリエンテーションを受けなければ、実習には出席できない。 3. 対象者の安全と安楽の確保とプライバシーの保護を配慮して実習を行う。 4. 基礎看護学実習 I・II とフィジカルアセスメントで学習した看護技術を臨地で適用していくため、十分な復習を行って参加すること。 			